

個性派企業の追求～社会貢献企業実現のために

昭和電工株式会社

2010年第1四半期 決算説明資料

2010年4月28日発表

取締役 専務執行役員 CFO
野村 一郎



本資料は発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

連結対象会社(前期末対比)

- 連結子会社 41社:増減なし
- 持分法適用会社 17社:△1社 クリスタルスペシャリティーズ社(清算、電子・情報)

主要諸元

(期中平均)

	2009年1-3月	2010年1-3月	増減
■ 為替レート※ (円/US\$)	93.6	90.7	2.9円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	27,000	47,600	20,600
■ アルミ LME (US\$/T)	1,397	2,195	798

※09年12月31日期末レート92.1円 10年3月31日期末レート93.0円
⇒ 0.9円安

連結業績の概要

2009年1-3月 対 2010年1-3月

(億円)

	2009/1-3	2010/1-3	増減
売上高	1,210	1,877	667
営業利益	△157	70	227
営業外損益	△80	△19	60
うち金融収支	△16	△13	2
うち持分法損益	△14	2	16
うち為替差損益	7	3	△4
うち操業短縮損失	△35	△0	35
経常利益	△236	51	287
特別利益	4	3	△1
特別損失	△76	△14	62
税金等調整前四半期純利益	△309	40	348
法人税等	88	2	△86
少数株主損益	0	△6	△6
四半期純利益	△221	35	256

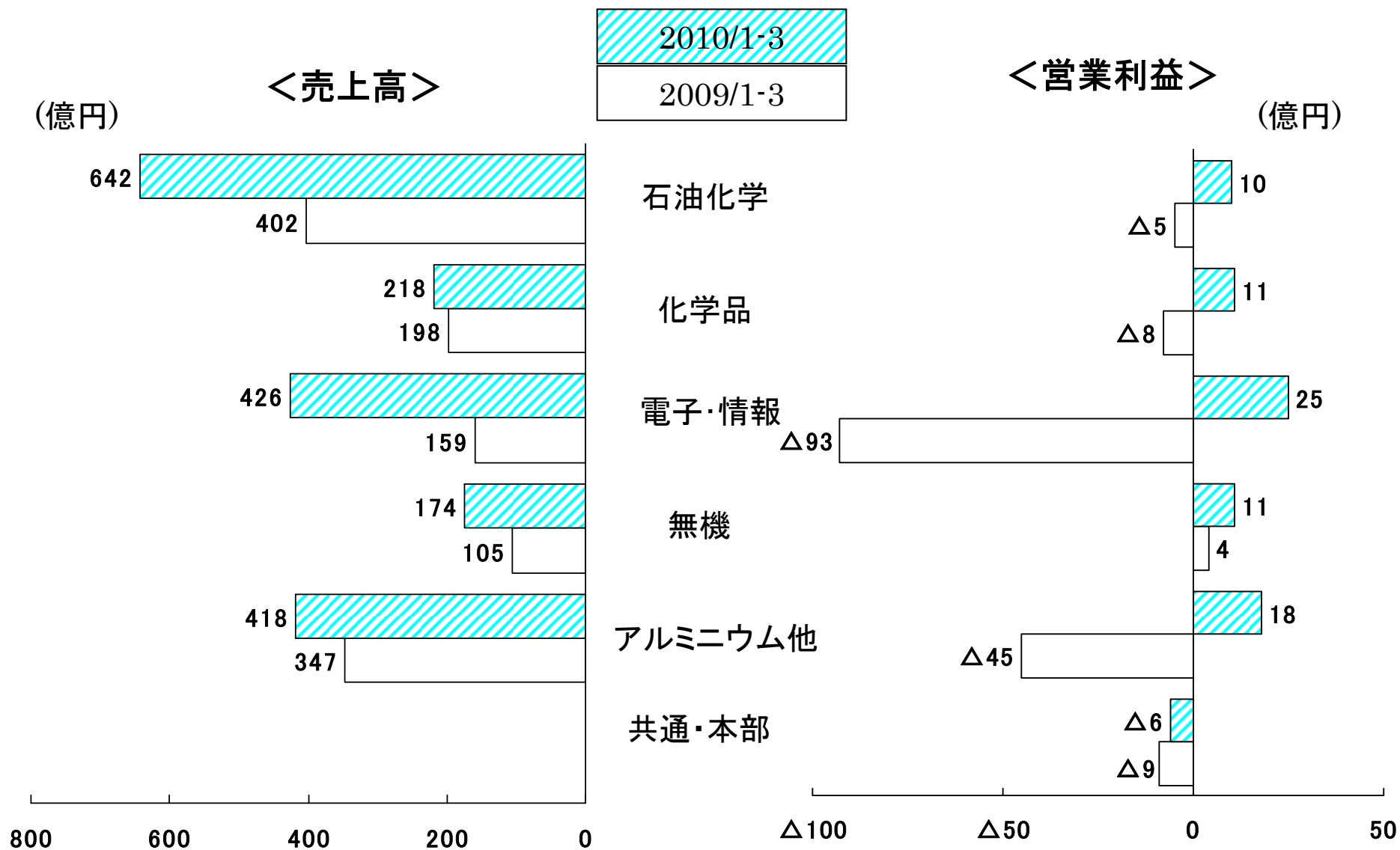
特別損益の内訳

(億円)

	2009/1-3	2010/1-3	増減
■特別利益	4	3	△1
●固定資産売却益	0	1	1
●その他	3	2	△1
■特別損失	△76	△14	62
●期首たな卸資産評価損	△55※	0	55
●固定資産除却・売却損	△9	△3	6
●減損損失	△2	△5	△3
●投資有価証券売却・評価損	△5	△0	4
●その他	△5	△6	△1
■特別損益	△72	△11	61

※09年は「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用初年度のため、期首たな卸資産評価損を特別損失に55億円計上。

セグメント別業績の概要



連結売上高差異内訳

(億円)

	2009 1-3	2010 1-3	増減	項目
石油化学	402	642	240	オレフィン:増収(価格上昇、定修あったものの数量前1Q並み) 有機:増収(酢酸ビニル等数量増)
化学品	198	218	20	AN:増収(数量増、価格上昇) アンモニア・クロロプレンゴム:増収(数量増)
電子・情報	159	426	267	HD:大幅増収(数量大幅増) 化合物半導体・特殊ガス・レアアース:増収(エレクトロニクス業界向け数量増)
無機	105	174	69	セラミックス:増収(数量増) 電極:増収(日・米共に数量増)
アルミ ニウム他	347	418	70	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔数量増) 押出・機能材:前1Q並み(前年下期に建材向け汎用押出品から撤退、LBP用アルミシリンダー数量増) 熱交換器:増収(国内・米国・欧州・中国全て数量増により増収) ショウテック:増収(自動車向け数量増) アルミ缶:増収(数量増)
合計	1,210	1,877	667	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2009 1-3	2010 1-3	増減	項目
石油化学	△5	10	16	オレフィン:増益(価格上昇) 有機:増益(数量増)
化学品	△8	11	20	AN:増益(数量増・価格上昇) アンモニア:増益(数量増) クロロプレンゴム:減益(原料高によるタイムラグ)
電子・情報	△93	25	119	HD:増益(数量増) 化合物半導体・特殊ガス・レアアース:増益(エレクトロニクス業界向け数量増)
無機	4	11	7	セラミックス:増益(数量増) 電極:増益(特に米国で数量増)
アルミ ニウム他	△45	18	63	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔数量増) 押出・機能材:増益(建材向け汎用押出品からの撤退により 収益改善、LBP用アルミシリンダー数量増) 熱交換器:増益(国内・米国・欧州・中国全て増益) ショウテック:増益(数量増) アルミ缶:増益(数量増) 卸電力事業:減益(価格転嫁タイムラグ)
共通・本部	△9	△6	4	コストダウン等
合計	△157	70	227	

連結貸借対照表

(億円)

資産	2009年 12月末	2010年 3月末	増減	負債・純資産	2009年 12月末	2010年 3月末	増減
現預金	625	407	△218	営業債務	1,166	1,039	△127
営業債権	1,476	1,391	△84	有利子負債	3,739	3,679	△60
たな卸資産	923	950	27	再評価に係る繰延税金負債	459	459	—
繰延税金資産	46	69	22	退職給付引当金	271	269	△2
その他	256	239	△17	その他	1,081	1,039	△43
流動資産計	<u>3,327</u>	<u>3,057</u>	<u>△270</u>	負債計	<u>6,716</u>	<u>6,485</u>	<u>△231</u>
建物・構築物	911	915	5	資本金	1,406	1,406	—
機械装置・運搬具	1,348	1,304	△44	資本剰余金	622	622	△0
土地	2,558	2,558	0	利益剰余金	293	283	△10
他有形固定資産	226	307	81	自己株式	△2	△2	△0
有形固定資産計	5,043	5,084	41	株主資本計	2,319	2,309	△10
無形固定資産	136	132	△3	その他有価証券評価差額金	26	△9	△35
投資その他の資産	1,078	1,056	△23	繰延ヘッジ損益・為替換算調整額	△122	△104	17
(内、投資有価証券)	651	620	△31	土地再評価差額金	218	218	—
(内、繰延税金資産)	277	271	△6	評価・換算差額等計	122	104	△18
固定資産計	<u>6,257</u>	<u>6,272</u>	<u>16</u>	少数株主持分	426	430	4
				純資産計	<u>2,867</u>	<u>2,844</u>	<u>△23</u>
資産合計	9,583	9,329	△254	負債・純資産合計	9,583	9,329	△254

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	09年12月末	10年3月末	増減
■ 総資産	9,583億円	9,329億円	△254億円
■ 有利子負債	3,739億円	3,679億円	△60億円
■ D/Eレシオ	1.30倍	1.29倍	0.01p減
■ 自己資本比率	25.5%	25.9%	0.4p増

連結業績の概要

2009年10-12月 対 2010年1-3月

(億円)

	2009/10-12	2010/1-3	増減
売上高	2,062	1,877	△185
営業利益	112	70	△42
営業外損益	△18	△19	△1
金融収支	△14	△13	0
持分法損益	1	2	1
為替差損益	1	3	2
その他	△6	△10	△5
経常利益	94	51	△43
特別利益	46	3	△43
特別損失	△82	△14	68
税金等調整前四半期純利益	59	40	△19
法人税等	37	2	△36
少数株主損益	△6	△6	0
四半期純利益	90	35	△55

連結売上高差異内訳

(億円)

	2009 10-12	2010 1-3	増減	項目
石油化学	726	642	△84	オレフィン:減収(定修による数量減) 有機:減収(酢酸エチル等数量減)
化学品	233	218	△15	AN:増収(価格上昇) 工業ガス、農薬中間体:減収(数量減)
電子・情報	462	426	△36	HD:減収(数量減) 化合物半導体:小幅増収(数量増)
無機	174	174	0	セラミックス:小幅増収(数量増) 電極:小幅減収(国内減収、米国増収)
アルミ ニウム他	468	418	△50	圧延品:小幅増収 押出・機能材:減収(前年下期に建材向け汎用押出品から 撤退) 熱交換器:増収(国内、中国増収) アルミ缶:減収(数量減)
合計	2,062	1,877	△185	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2009 10-12	2010 1-3	増減	項目
石油化学	22	10	△12	オレフィン:減益(定修による数量減) 有機:減益(原料高によるタイムラグ)
化学品	9	11	2	AN:増益(価格上昇)
電子・情報	45	25	△20	HD:減益(数量減) レアアース:小幅減益(原料高によるタイムラグ)
無機	28	11	△17	セラミックス:前4Q並み 電極:減益(原料高によるタイムラグ)
アルミ ニウム他	17	18	1	押出・機能材:増益(建材向け汎用押出品からの撤退による収益改善) 熱交換器:増益(国内増益) アルミ缶:減益(数量減)
共通・本部	△10	△6	4	
合計	112	70	△42	

2010年第2四半期累計期間(1-6月)・通期 連結業績予想

(億円)

	第2四半期累計期間			通期
	年初予想 2月10日公表	今回修正予想 4月28日公表	増減	今回修正予想 4月28日公表
売上高	3,700	3,800	100	8,000
営業利益	100	130	30	330
経常利益	60	95	35	245
純利益	30	40	10	120

※ 通期の業績予想については、第3四半期以降の新たな算出を行わず、当初予想に第2四半期累計期間における修正額を加算しております。

2010年第2四半期累計期間（1-6月） セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

（億円）

	売上高			営業利益		
	年初予想 2月10日公表	今回修正予想 4月28日公表	増減	年初予想 2月10日公表	今回修正予想 4月28日公表	増減
石油化学	1,200	1,250	50	15	15	0
化学品	500	450	△50	10	20	10
電子・情報	900	900	0	55	60	5
無機	300	350	50	25	25	0
アルミ ニウム他	800	850	50	15	30	15
共通・本部	-	-	-	△20	△20	0
合計	3,700	3,800	100	100	130	30

※ 通期の業績予想については、第3四半期以降の新たな算出を行わず、当初予想に第2四半期累計期間における修正額を加算しております。

■ 石油化学セグメント

- 大分コンビナートエチレン設備 最新鋭分解炉への設備改造工事を実施
 - ◆ 大分コンビナートにおいて、環境負荷の低減とコスト競争力の強化を主な目的とし、最新鋭分解炉への更新を中心とする設備改造工事を進めてきた。具体的には、既存分解炉のうち7基を廃棄し、最新の高効率分解炉(エチレン年産10万トン×2基)を新設。国内トップレベルのエネルギー効率実現とともに、二酸化炭素排出量を年間約6万トン削減する。現在実施中の定期修理にあわせ、本年5月より稼動予定。
- 環境対応溶剤 酢酸ノルマルプロピルの本格生産を開始
 - ◆ 特殊グラビア印刷用インキの溶剤として使用される酢酸ノルマルプロピルの生産設備を完成させ、本年2月より本格的な生産を開始。酢酸ノルマルプロピルは、既存の溶剤に比較して安全性が高く、需要の伸びが期待されている。

■ 化学品セグメント

- 液化アンモニア「エコアン[®]」東北圏 新物流基地稼動開始
 - ◆ 東北圏における液化アンモニア「エコアン[®]」の船舶輸送による輸送効率とサービスレベル向上を図るため、100%出資の子会社丸昭興業(株)において福島県相馬港に物流基地を新設。使用済みプラスチックを原料として製造する「エコアン[®]」は、大手電力会社よりグリーン調達品としての認定を受けており、火力発電所等の排煙に含まれる窒素酸化物の除去等に使用される。

■電子・情報セグメント

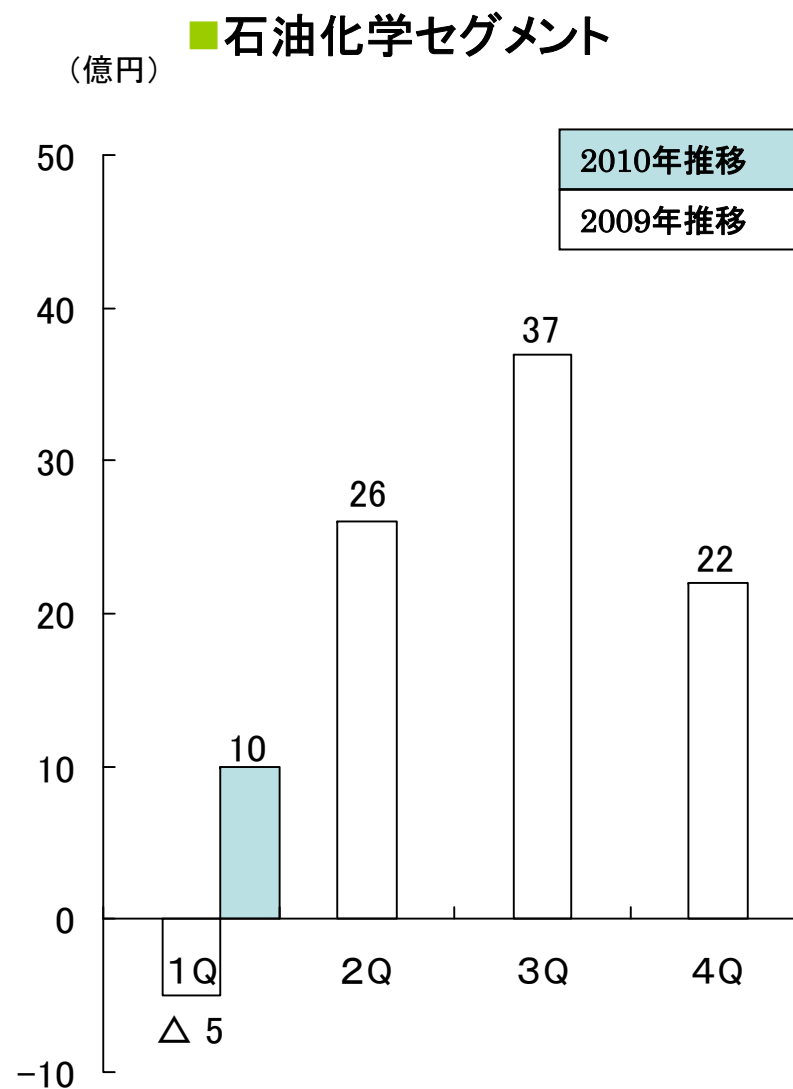
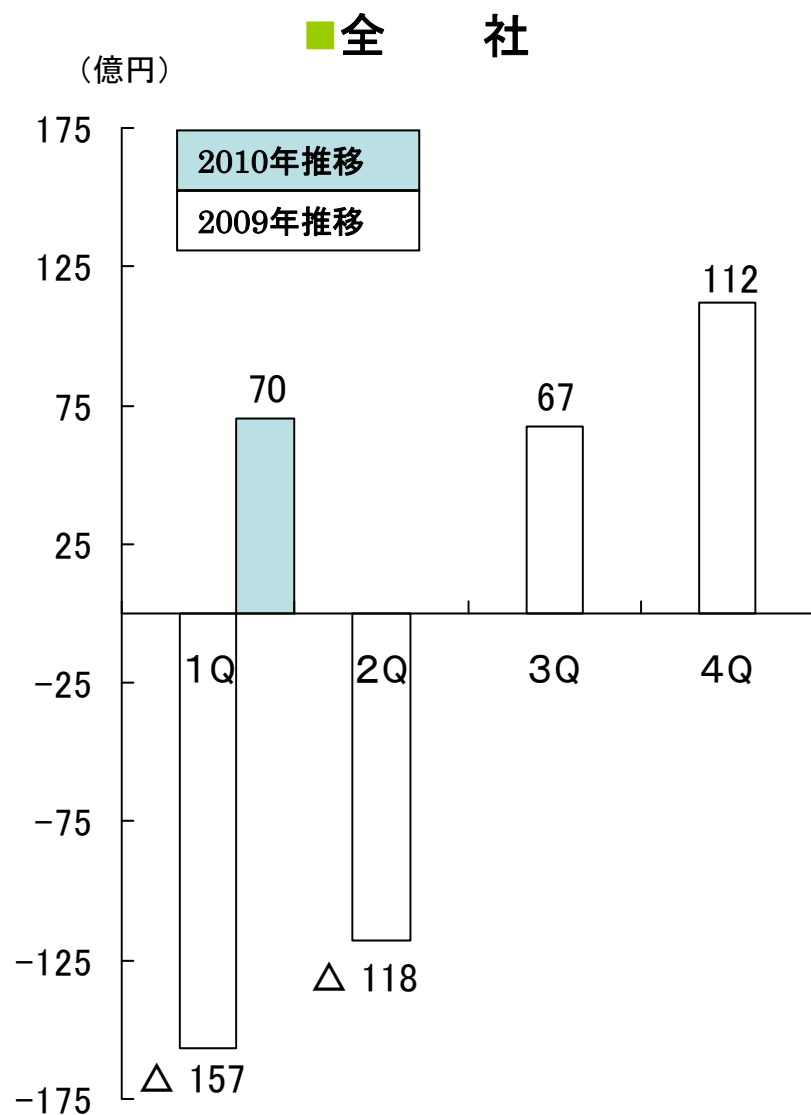
- 焼却炉での熱電発電 実用化に向けた本格的な実証実験に着手
 - ◆ 中温域(300～600℃)での高変換効率が特長の熱電素子およびそれを用いた熱電変換モジュールを開発し、本モジュールを使用した廃棄物焼却炉の廃熱による熱電発電の実証実験を(株)プランテックと共同で開始。熱電発電とは、熱エネルギーを直接電気に変換する発電方法で、廃熱を有効利用する省エネルギー技術として注目されており、今後実用化に向けて取り組む。

- エレクトロニクス分野向け洗浄剤 中国における生産・販売一貫体制を実現
 - ◆ 半導体や液晶パネルの製造工程においてフォトレジストの洗浄や溶媒として使用される高純度シクロヘキサノンの生産設備を、中国浙江省にある子会社浙江衢州巨化昭和電子化学材料有限公司に設置し、本年8月より量産開始予定。今般の高純度シクロヘキサノンの生産・販売一貫体制の構築により、エレクトロニクス分野向け洗浄剤事業を強化し、本分野で高い成長が続くアジア地区のお客様への安定供給を実現する。

■アルミニウム他セグメント

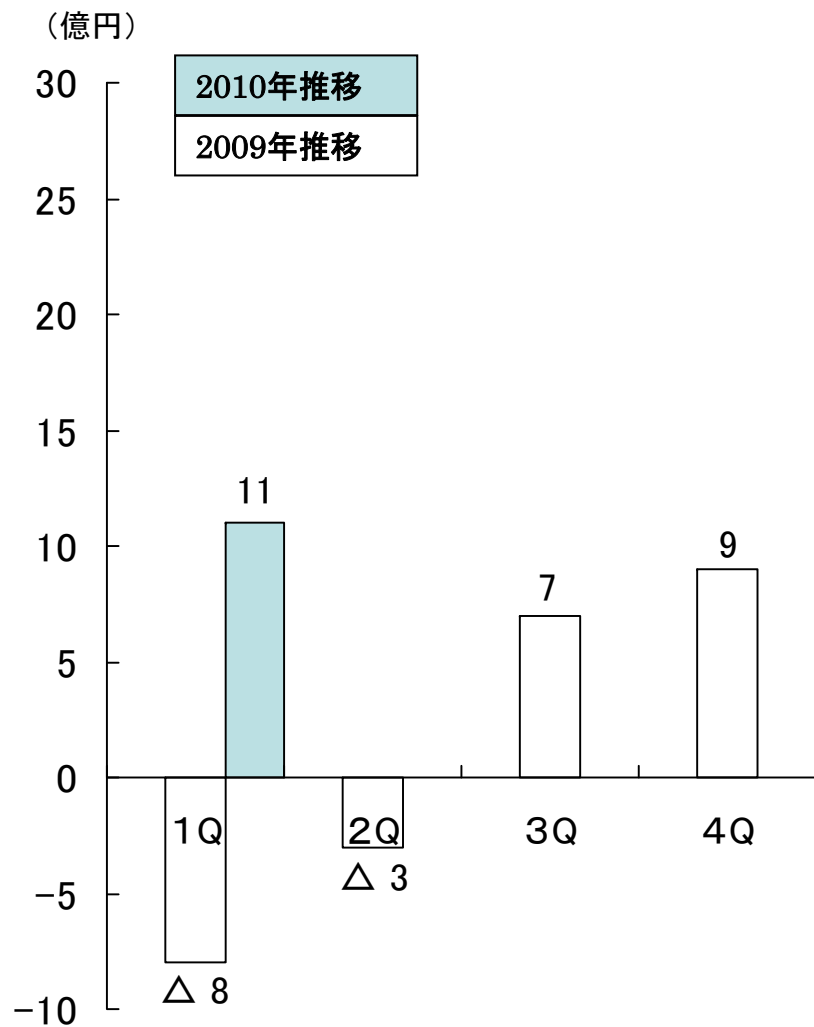
- 冷却器事業開発部を新設
 - ◆ ハイブリッド自動車向け等に需要拡大が見込まれる冷却器事業のさらなる強化を図るため、冷却器事業開発部を新設。省エネルギー製品として需要拡大が見込まれるパワー半導体冷却器の開発から製造、販売までを一体的に運営することにより、今後さらなる事業拡大を図る。

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

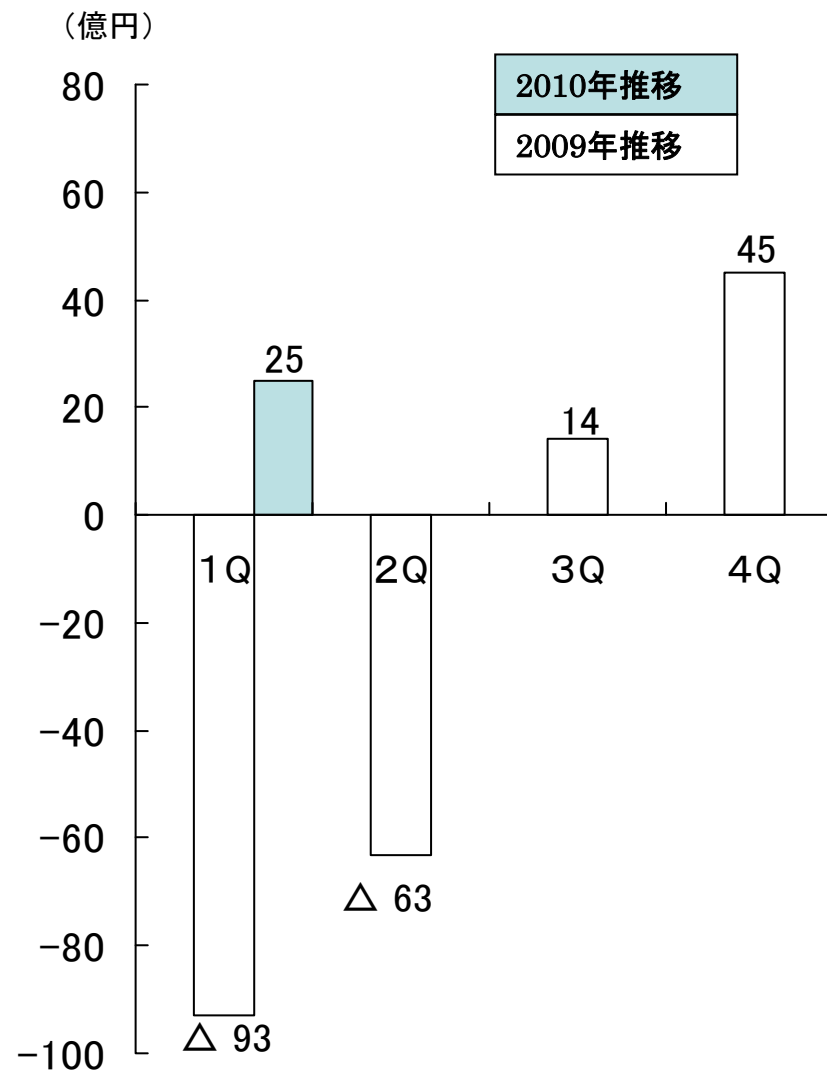


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■ 化学品セグメント

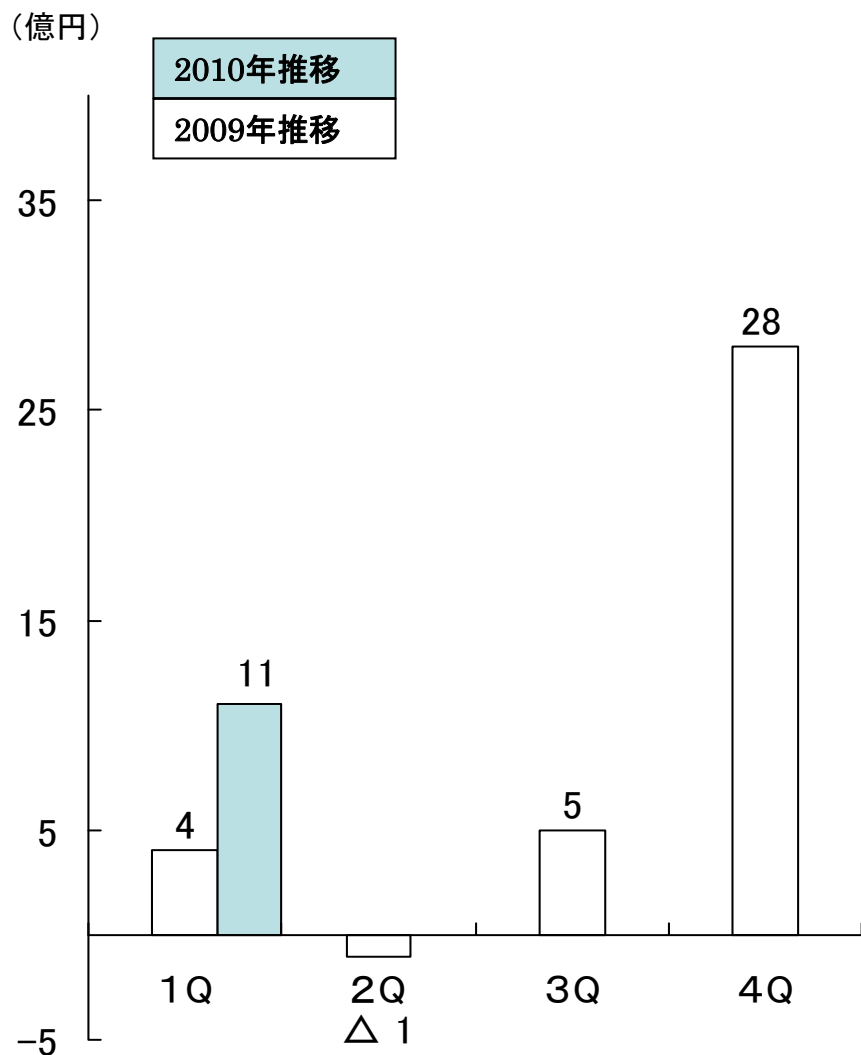


■ 電子・情報セグメント



(ご参考)セグメント別営業利益推移

■無機セグメント



■アルミニウム他セグメント

